

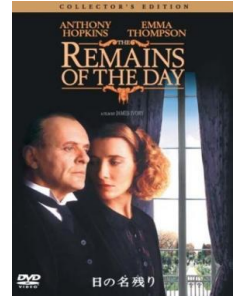
日の名残り

The Remains of the Day

観賞日 2019・10・14

【概要】

制作 1993年 英、米 上映時間 134分
原作 カズオ・イシグロ
監督 ジェームズ・アイヴォリー
出演 アンソニー・ホプキンス (ジェームズ・スティーブンス)
エマ・トンプソン (ミス・ケイトン)
ジェームズ・フォックス (ダーリントン卿)
クリストファー・リーヴ (ルイス)



【あらすじ】

1956年イギリス。ジェームズ・スティーブンスのもとに届いたケイトンからの手紙。スティーブンスはかつて英国貴族ダーリントン卿の執事でケイトンはメイド頭であった。スティーブンスは久々、ケイトンに会うため旅に出かける。

1935年、第2次世界大戦前夜。ケイトンはダーリントン卿に雇われ二人は同じ職場で働くようになる。スティーブンスは有能な執事で主人からの信頼も厚く厳格な性格の持ち主である。そんな、スティーブンスに最初は馴染めなかったケイトンであるが、彼の実直な仕事ぶりに徐々に好意を持つようになる。ある日、ダーリントンホールに各国の首脳が集まり今後の世界情勢について議論する国際会議が開かれる。会議は親ナチス派のダーリントン卿の考えが反映され、アメリカ人のルイス以外はドイツに対して寛大な意見が支配した。いつしかケイトンはスティーブンスにとってなくてはならない存在となる。ある晩、ケイトンは旧友のベンからプロポーズされたことをスティーブンスに話し意見を求める。しかし、スティーブンスの意見はケイトンを落胆させるものであり、ケイトンはスティーブンスの許を去ることになる。

20年ぶりに会ったケイトンがスティーブンスに語ったことは・・・。
日本生まれのノーベル賞作家、カズオ・イシグロの同名小説の映画化。

【解説】

■ポイント

●イギリスの階級社会と執事

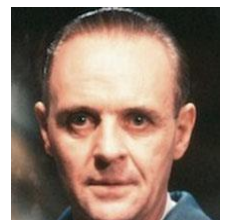
- ・イギリスは典型的な階級社会で、国王を頂点とし、その次に貴族が存在する。
- ・イギリスでは家事使用人にも階級が存在し、その最上位にいるのが執事。
- ・執事は主人を代行して使用人全員を統括していた。また、執事は主人の身の回りの世話や秘書として主人に仕えた。

●原作者：カズオ・イシグロ（1954年～）

- ・長崎で生まれ、父の転勤でイギリスにわたる。（1960年）
- ・1989年に「日の名残り」を発表、2017年にノーベル文学賞を受賞

●主演：アンソニー・ホプキンス

- ・1937年：イギリス、ウェールズ生まれ
- ・1991年：「羊たちの沈黙」でアカデミー賞主演男優賞を受賞
- ・1993年：本作でゴールデン・グローブ賞主演男優賞にノミネート
「羊たちの沈黙」のレクター博士が当たり役であるが、本人はベジタリアン



■見どころ

- 伝統社会イギリスの貴族社会の主人と執事の関係
- ラストシーン
スティーブンスとケイトンの別れのシーン